

2019年の無人搬送車システム納入実績について発表します。

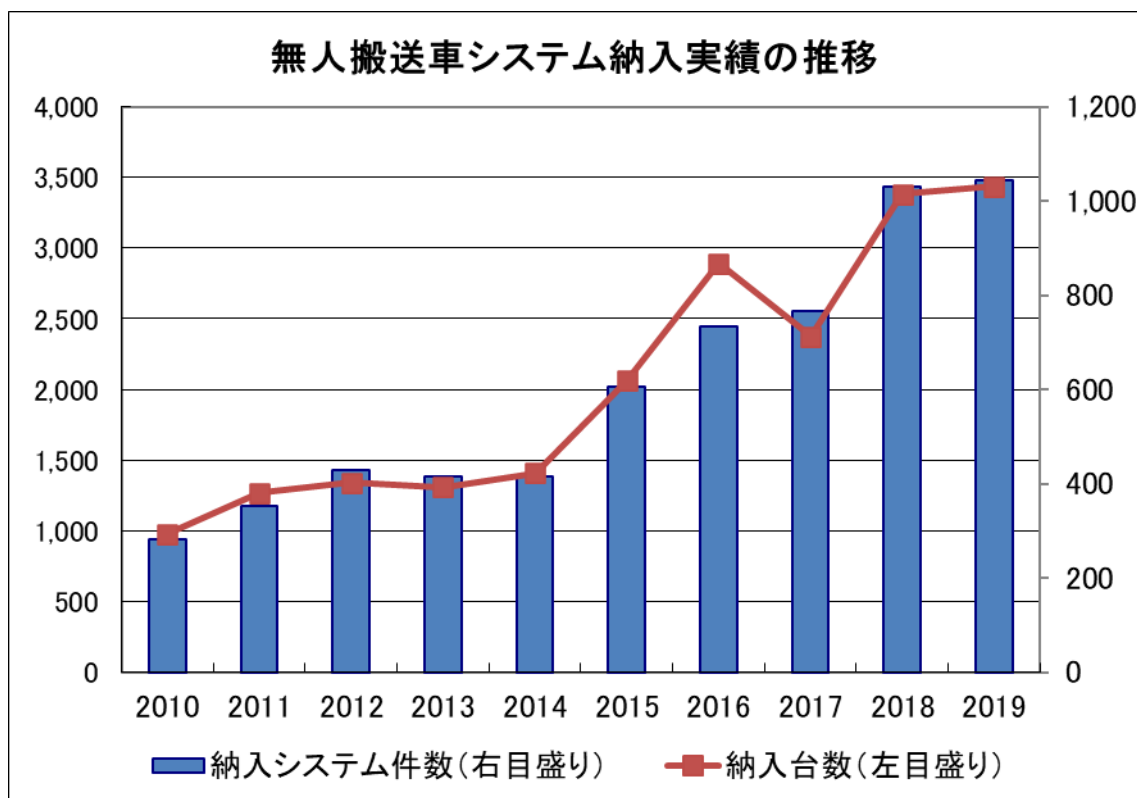
～納入システム件数は1,045件、納入台数も3,436台で、2018年を上回って過去最高を更新～

一般社団法人日本産業車両協会

一般社団法人日本産業車両協会（二ノ宮秀明会長（三菱ロジスネクスト（株）シニアアドバイザー））は、2019年1～12月分の、無人搬送車システム納入実績について、協会会報「産業車両」誌9月号に、協会の無人搬送車システム委員会特別委員である東京理科大学 荒木勉教授による解説記事を掲載し、詳細な分析を発表した。概要は以下の通り。

なお、本調査結果の詳細を掲載した協会会報「産業車両」誌9月号は1部750円（送料込み、税込み）で会員以外にも頒布する（数量限定）。

1. 2019年の国内向け、輸出向けを合わせた無人搬送車システム納入件数は1,045システム（対前年比101.6%）、納入台数も3,436台（同101.6%）と、前年を上回って1989年の調査開始以来、最高の数字を更新した。2018年以前の実績（実数値）は[こちら](#)から。



2. 無人搬送車システム納入件数の車両タイプ別の割合は、「無人搬送車（台車）」が 32.5%（37.2%）、「無人けん引車」が 60.7%（56.6%）、「無人フォークリフト」が 6.7%（6.2%）であった。（カッコ内は前年実績、以下同じ）
3. 無人搬送車システム納入件数の業種別割合は、「自動車・同付属品製造業」向けが 48.6%（56.6%）と構成比を下げたものの依然として最も多く、次いで「一般機械器具製造業」向けが 11.9%（8.1%）が続き、「弱電機械器具製造業」が 6.4%（2.4%）と大きく伸び、「化学・医薬品製造業」の 4.6%（4.3%）を上回った。いずれにしても、製造業向けが多くを占める傾向は変わらなかった。
なお、非製造業は「卸・小売業」向けが 1.4%（2.0%）、「運輸・倉庫業」向けが 2.2%（2.4%）と、いずれも構成比を下げた。
4. 無人搬送車システム納入件数の車両誘導方式別割合は、「磁気式」が 84.1%（91.8%）と構成比を下げつつも依然大半を占め、「レーザー式」が 12.0%（4.0%）と急増した。また SLAM 式やマーク認識式等を含む「その他」が 2.9%（1.9%）と上昇した。
5. 無人搬送車システム納入件数の国内向け／海外向けの割合は、国内向けが 76.1%（76.9%）、海外向けが 23.9%（23.1%）で、1 システム当たりの台数では、国内向けは 2.7 台（2.5 台）、海外向けは 5.2 台（5.9 台）と、国内向けで増加した。

なお、本調査の対象となった無人搬送車システムメーカーは 18 社である。

また、本会では「AGVS（無人搬送車システム）導入ガイドブック」を PDF で無償提供しており、その数はすでに 100 件を超えているが、ご希望の方は、[本会ホームページ](#)よりお申し込み下さい。

【参考情報：無人搬送車システムの規格策定・改正の状況】

(1) 国際安全規格（ISO）

本会も審議に参加してきた、初めての無人搬送車システムの国際安全規格 **ISO3691-4 Industrial trucks. Safety requirements and verification. Part 4: Driverless industrial trucks and their systems** は、2020 年 2 月について発行された。原文は日本規格協会の[サイト](#)から購入可能。

(2) 日本工業規格（JIS）

ISO3691-4 の発行を受け、本会では 2021 年 1 月から、**JIS D6802 : 1997「無人搬送車システム—安全通則」**の改正審議にも着手する計画である。

この JIS では上記 ISO と同じく、磁気テープ等の誘導体に従って走行する方式と、自律移動式のいずれも規格の対象となる。

以 上